

5 友達といっしょに遊びに行く

1 次の会話を聞いてみましょう。



ここでは、どんなインターアクションがいいかを考えてもらうために、同じ場面、同じ人物による会話 A（うまくいかなかった例）と会話 B（うまくいった例）の 2 つの例を提示しています。

(1) 【場面】を理解する

- 学習者に【場面】を読ませて、どんな状況（＝アンナが直美を携帯電話のメールで誘ったら、直美から電話がかかってきた）なのか、アンナが直美に書いた携帯電話のメールの内容はどのようなものか（＝アンナが直美を誘っている。待ち合わせの場所と時間を伝えて直美の都合を確認している）を学習者に正確に理解させます。
- 必要に応じて、「どうして直美はアンナに電話をかけましたか」「待ち合わせの時間は何時ですか」などの質問をして、学習者の理解を確認するといいいでしょう。

(2) 会話 A・会話 B を聞く

- まず、会話 A を聞きます。ここでは、会話の SCRIPT を読んだだけではわからない話し方（話すスピード、トーンなど）にも注目してもらうため、1 回目は会話の SCRIPT は見ないように学習者に指示します。ただし、p. 88 の 3 枚の絵は内容の理解を助けるので、必要に応じて見てもいいことにします。
- 次に、会話 B を聞きます。会話 B は会話 A とまったく同じ登場人物と同じ場面です。うまくいった例を挙げています。ただし、会話 B はモデル会話ではなく、あくまでも 1 つの例として考えてください。（会話 B の会話 SCRIPT と英語の翻訳は別冊にあります。）

(3) ペアやグループで気づいた点を話し合う

- 学習者が気づいた会話 A・会話 B の違いを p. 89 の記入欄（「会話 A・会話 B を聞いて、気づいたことを書いてください。」）に書いてもらいます。まず、各自で考えてもらい、その後、ペア／グループで気づいた点を話し合います。
- 日本語で表現するのが難しい場合は、まず、母語で書いてもらってもいいでしょう。
- 気づいた点が出てこない場合は、会話 A の SCRIPT の気になる部分に線を引き、「なぜ気になるのか」「自分だったらどのようにするか」などについて考えてもらうと、具体的な点が出てきやすくなります。
- ここでは、次のような点に学習者が気づくことが期待されます。

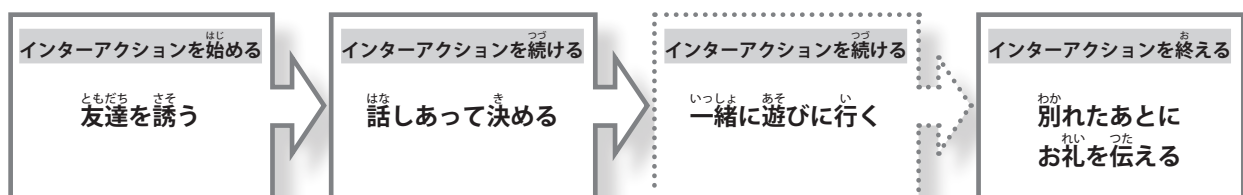
メール A の問題点	メール B のいいところ
<ul style="list-style-type: none"> ・直美の質問に答えていない。 直：「留学生の友達とどこに行くの？」 ア：「直美も来ることができる？」 ・直美は行きたくなさそうだが、アンナは気にしていない。 直：「カラオケはあまり……。」 ア：「留学生はカラオケ大好き。」 ・直美は間接的に断っているが、アンナは積極的に誘っている。 直：「最近の歌、よくわからないし、歌も上手じゃないから……。」 ア：「大丈夫、絶対楽しいよ。」 ・アンナが一方向的に電話を切ったので、直美は驚いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直美の質問に適切に答えている。 ・直美の反応（行きたくなさそう）を理解して、確認をしている。 （「え？ カラオケは好きじゃない？」など） ・直美の反応を見ながら、押し付けずに説得したり、誘ったりしている。 ア：「そっかあ。私も日本語の歌は……」 「どうする？ よかったら行かない？」 「じゃあ、行きたくなったら、いつでもメールして。」 ・直美とやり取りしながら、電話を切っている。

(4) ペアやグループで気づいた点をクラス全体で出し合う

- 各ペア／グループの代表者に、気づいた点を 1 つずつ挙げてもらいます。
- 「会話 B の会話のほうがいい」など、大まかな指摘しかなかった場合、「どうしてそう思いますか」などと質問し、具体的な点を出すよう促します。
- ここでは気づきを促し、PART 2 以降の学習への動機を高めるのがねらいです。上に挙げた（気づきが期待される）点のすべてを学習者から出してもらう必要はありません。また、「会話 A の〇〇のほうがいい」など、教師が期待していない答えが出てくることもあります。学習者に自由に意見を述べてもらうようにしましょう。
- PART 2 <インターアクションのポイント>が終わったあとに、もう一度会話 A と会話 B を聞くと、インターアクションのポイントが明確になり、効果的です。

2 やってみましょう。

- 教科書にはインターアクションの大きな流れが載っていますが、わかりやすく書くと、次のようになります。



- この「**2** やっていきましょう。」と「リハーサル」(p. 99) では、「いっしょに遊びに行く」の部分が省略されるため、「別れたあとにお礼を伝える」を行うのは難しいかもしれません。その場合は、「いっしょに遊びに行く」の部分で、「遊びに行って何をしたか」を想像して書いてもらう活動を取り入れるといいでしょう。例えば、スケジュール表を渡して、「どこで」、「何をして」、「どうだったか」を想像で書いてもらうなどです。また、時間があれば、インターネットで遊びに行く所を調べて報告するなどの活動を入れると、具体的なイメージができていいと思います。それに基づいて「別れたあとにお礼を伝える」を行うと、活動がしやすくなります。